

# U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

## 米国 内需 - 食品価格の上昇で90年1月以来の上昇ペース (05年9月生産者物価)

発表日: 05年10月18日(火)

~ 今後、生産者物価コアへの上昇圧力は緩やかながらも強まる公算 ~

(No. UI - 127)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

## 生産者物価 (Producer Price Indexes)

	最終財		コア		エネルギー	中間財		原材料		<参考> 輸入物価		WTI
04/09	+0.3	(+3.3)	+0.3	(+1.7)	0.2	+0.3	+0.8	4.5	1.3	+0.1	45.8	
04/10	+1.5	(+4.5)	+0.3	(+1.8)	+5.7	+1.0	+0.5	+4.3	+4.3	0.1	53.2	
04/11	+0.7	(+5.0)	+0.3	(+2.0)	+2.7	+0.8	+0.3	+7.6	+3.1	+0.9	48.5	
04/12	0.3	(+4.2)	+0.2	(+2.3)	2.4	+0.1	+0.4	3.1	1.4	+0.4	43.3	
05/01	+0.1	(+4.1)	+0.7	(+2.6)	1.0	+0.3	+0.7	2.0	2.5	+0.3	46.9	
05/02	+0.4	(+4.7)	0.1	(+2.6)	+1.8	+0.6	+0.5	1.0	2.9	+0.1	48.1	
05/03	+0.8	(+5.0)	+0.2	(+2.6)	+3.3	+1.0	+0.3	+4.7	0.3	+0.3	54.6	
05/04	+0.5	(+4.8)	+0.3	(+2.6)	+1.8	+0.7	+0.1	+2.6	+2.1	+0.4	53.0	
05/05	0.5	(+3.6)	+0.3	(+2.8)	3.3	0.7	0.3	3.1	3.0	0.2	50.0	
05/06	0.1	(+3.6)	0.3	(+2.2)	+1.7	+0.2	0.1	2.7	5.4	0.2	56.4	
05/07	+1.0	(+4.6)	+0.4	(+2.8)	+4.4	+1.0	0.1	+6.7	+3.1	0.1	58.9	
05/08	+0.6	(+5.1)	+0.0	(+2.4)	+3.7	+0.7	0.1	+2.3	+4.6	0.1	65.0	
05/09	+1.9	(+6.9)	+0.3	(+2.6)	+7.1	+2.5	+1.2	+10.2	+5.3	+1.3	65.5	

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

### コアが前月比+0.3%と市場予想を上回った

05年9月の生産者物価(最終財)は、エネルギーや食品の上昇によって前月比+1.9%と90年1月以来の高い伸びとなり市場予想の同+1.2%を上回った。一方、変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、資本財、消費財が自動車価格の上昇等によって押し上げられたため同+0.3%と市場予想の同+0.2%を小幅上回った。もっとも、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で見ると、中間財(コア)が+0.4%(8月同1.4%)とプラスに転じたが、遅れて影響を受ける最終財(コア)が同+1.5%(同+1.0%)と3ヵ月連続で低い伸びにとどまっている。生産者段階では川上の物価上昇圧力が強まっているものの、川下の上昇は限定的なものにとどまっていると判断される。

### 資本財、消費財コアは共に前月から上昇

最終財のカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜や卵の上昇によって、食品価格は前月比+1.4%(8月同0.3%)とプラスに転じた。エネルギーは前月比+7.1%(8月同+3.7%)とプラス幅が拡大した。ヒーティングオイルが同+4.8%(同0.3%)とプラスに転じ、さらに天然ガスが同+9.0%(同+2.5%)、ガソリンが同+12.7%(同+9.5%)と加速した。

消費財(エネルギー・食料品を除く)では、乗用車が前月比+0.9%(8月同1.3%)、フロアカーペットが+1.2%(同0.1%)、定期発行誌が同+0.3%(同0.3%)、ガラスが+0.2%(同+0.0%)、男性物アパレルが+0.2%(同0.4%)、靴が+0.3%(同0.5%)と上昇に転じた。さらに、宝石・プラチナ・金が前月比+0.8%と高い伸びが続く、処方薬が同+0.4%と加速したことから、消費財(エネルギー・食料品を除く)は同+0.2%(同0.1%)とプラスに転じた。

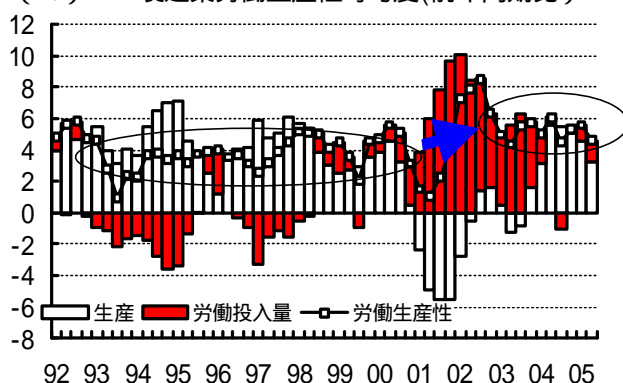
他方、資本財では、品質向上や値引きが続くコンピューターが前月比 2.6% (8月同 0.4%) と下落幅が拡大し、建設機械・機器が同 0.1% (同+0.3%)、大型トレーラーが同 0.5% (同+1.4%)、X線・電子医療機器が同 0.7% (同+0.3%) と下落した。また、軽トラックが同+0.5% (同+0.5%) と同率の伸びとなった。一方、通信機器が同+0.0% (同 0.3%) と前月比かわらずとなり、民間航空機が同+0.2% (同+0.0%)、大型トラックが同+1.0% (同+0.2%) とプラス幅が拡大したことから、資本財全体でも同+0.3% (同 0.1%) と上昇した。

### 生産者物価(最終財)コアは前月比で緩やかな上昇になる見込み

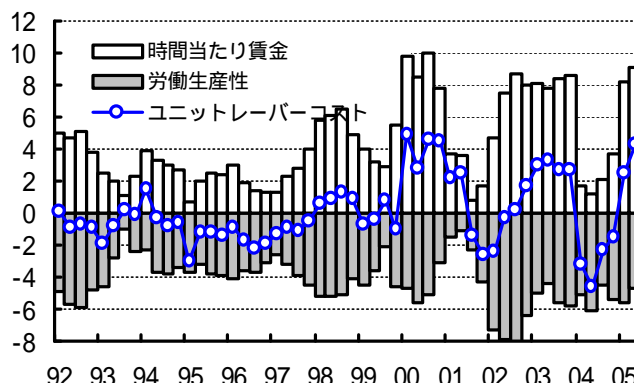
今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で9月に+13.2% (8月 12.3%) とプラスに転じたこと、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(ISM製造業景気指数)が急上昇していることから、インフレ圧力は再び強まっている。

今後、世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格(コア)、中間財コアでは上昇圧力が強まると見込まれる。しかし、製造業では売上の増加による数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価(最終財)コアは前期比で緩やかな上昇にとどまろう。

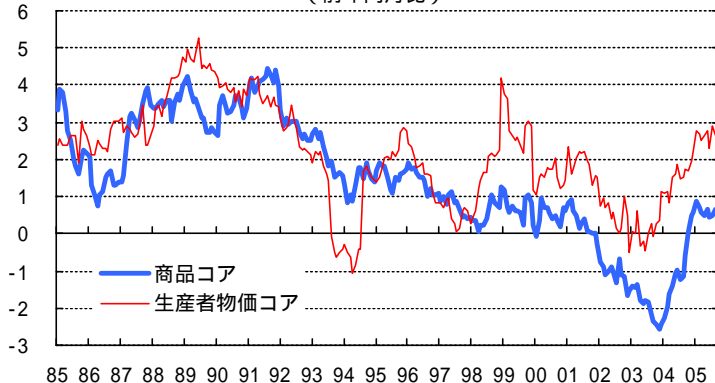
(%) 製造業労働生産性寄与度(前年同期比)



(%) 製造業U L Cの要因分解(前年比)



(%) 生産者消費財物価コアと消費者物価商品コア(前年同月比)



(出所)米労働省

